



学校だより 8月9日

令和5年8月28日

横浜市立芹が谷南小学校

学校Webページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/serigayaminami/>



夏の思い出

校長 大島 恵子

各地で猛暑日が続き、猛暑日連続記録更新等のニュースが流れ今年も暑い夏でした。休みに入る前に、子どもたちには「時間がたくさんある時にしかできないことにぜひ挑戦してほしい。」という話をしました。子どもたちに言うだけでなく自分も何か目標を決めて夏を過ごしたいと思い「校長先生は夏休みにたくさん本を読もうと思います。何冊読み終わったか、休み明けにみなさんに報告しますね。」と話しました。主に閉庁期間中に時間を見つけては読書に励み、結果は8冊でした。選んだ本の種類は小説、エッセイ等が多く、あまり頭を使わずのんびり読み進めました。児童書の中に深いメッセージを感じたものがあり、子どもたちにぜひ紹介したいと思ったり、外国への旅をテーマにしたエッセイには自分も美しいものや心に残る景色をたくさん見たいと心を躍らせてたりしました。不器用だけれど子どもに寄り添うことを一番に考える先生が主人公の小説では、子どもを大切に思うこと、寄り添うことについて考えました。今いる日常から離れて、違う世界に入り込むことができる読書って本当に楽しいですね。本の世界でいつもと違う体験をたくさん楽しむことができた夏でした。子どもたちはそれぞれ何に挑戦し、どのような夏を楽しんだのでしょうか。

今年の夏は、4年ぶりに地域行事が再開され町内会主催の祭りも各地で開催されました。いくつかの夏祭りに参加させていただきましたが、どの町内会の祭りも大盛況で子どもたちを含めた地域の皆様が、祭りの再開を心待ちにしていたことが伝わってきました。浴衣を着ておめかしをしている子、かき氷をほおぼる子、町内会主催の出店で店番を任せられ呼び込みをしている子。どの子の表情も晴れやかでした。浩南台町内会の夏祭りでは本校オリジナルの「芹南音頭」が流れ、在校生に混じり卒業生も一緒に踊ってくれました。大勢の地域の方を前に「芹南音頭、踊れるよ!」と少し誇らしげに踊る在校生と、卒業しても母校を懐かしく思い、振り付けを思い出しながら踊る卒業生の姿が微笑ましく、祭りをとおして気持ちが一つになる時間を共有できたことをうれしく思います。玉興町内会の夏祭りでは、玉興町内会和太鼓クラブに参加している児童と卒業生の皆さんが和太鼓の演奏を披露してくれました。練習の成果を発揮しようと真剣な表情の子どもたちと小学生に優しく目配りしながら演奏する卒業生の若者たちの姿に温かい気持ちになりました。演奏の最後には、卒業生から次のような挨拶がありました。「自分は小さい頃から地域の中で、和太鼓指導の先生をはじめ地域の皆さんにお世話になってきた。ぜひこれからは、地域に恩返しをしていくとともに地域とつながっていきたい。」若者の素敵な言葉に、地域に学ぶ、地域を愛するというの、こういうことなのだと思わせてもらったように思います。地域の中でつながることの大切さを、改めて実感できた夏となりました。

いよいよ学校が始まります。子どもたちがそれぞれ夏に学んだこと、体験したことで蓄えたエネルギーを生かして、実りの多い学校生活を送れるよう努めてまいります。今後ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

